

みんなで子育て No.3



バックナンバーは
こちらから▶



環境エネルギー生活部 県民生活課
家庭教育推進専門職 : 辻
Tel 058-272-8206

5月5日は「端午の節句」でしたが、少し寂しく感じていることがあります。それは季節の風物詩である「鯉のぼり」を見かける機会が少なくなったことです。揚げる空間が無いことがあるのかもしれませんが、田舎の方に行っても子どもが少なくなったためなかなか見ることができません。そんなこともあってか、最近川にロープを渡し、鯉のぼりを飾る地域ができました。私は住む地域の川にも、たくさんの鯉のぼりが泳いでいます。(写真は、道の駅上矢作ラ・フォーレ福寿の里)



個々の家庭で行うのが難しくなったことを、地域で行っていただけるのはありがたいことだと考えます。子どものためにと地域で行われる取組みを見学したり、行事に親子で参加したりされては如何でしょう。実物を見たり、体験することは、子どもにとっては貴重な機会です。是非、地域の回覧版や市町のHP・広報誌等から情報を得て、家族で参加してみてください!

本巣市立本巣小学校 「たけのご掘り体験」 4月27日(日)

たけのご掘り指導 : 地域学校協働活動のサポーター

大亀寺ふれあいの森
たけのご掘り体験
開催日時 4月27日(日) 10時~12時
※掘ったものは各自持ち帰りください
場所: 大亀寺
定員: 子ども20名、保護者10名ほど
持ち物: 動きやすい服装(長袖、長ズボン)、軍手、長靴、必要に応じて雨具、虫よけスプレー、持ち帰り用の手さげカゴ(掘ったものをそのまま入れるため)
※雨天中止となります

本巣小学校PTAでは、市の地域支援コーディネーターと連携して親子体験活動「たけのご掘り体験」を企画しました。昨年の秋に、防災訓練の一環として竹を使った炊飯体験を行っており、今年度はそれに加え、本体験活動を計画したそうです。

当日は、学校の近くにある大亀寺に集合し、参加した約30名の親子は長靴に履き替え、ヒル対策として防虫スプレーを散布するなど安全面に配慮しながら、寺が所有する竹林に入りました。

保護者も初めての体験と言われる方が多く、地域のサポーターから掘る時の注意を学んだ後、家庭ごとでたけのご掘りに挑戦しました。

親子3代で参加されている家庭もあり、おばあちゃんがお母さんに、あくを抜くために、たけのこの上部を切断し、大鍋でこめぬかと一緒に煮る方法を伝授してみえました。このように、親から子へ、子から孫へと日常生活の中で、いろいろな知識や技を教え伝えることって、とても大切だなあと改めて感じました。



参加者の声

- 子どもも私も、たけのご掘りは初めてです。探すのが大変、掘るのも大変でした。見つかると楽しくて、子どもと一生懸命掘りました。今夜はたけのご飯をつくり、家族みんなで食べたいと思います。
- 始めの方はなかなか見つけることができませんでしたが、場所を変えたら、たくさん取ることができました。下の方の硬い部分はメンマにしたいと思います。
- たけのご掘りは初めてでしたが、とても面白かったです。山の中には普段ほとんど入らなくて、今日は兄の方が行きたいと言ってきたので子ども2人を連れて参加しました。鳥の鳴き声も聞くことができ、参加してよかったです。
- なかなか経験できないことなので、私(母)から誘って参加しました。大人も楽しめました。



5月の講師 : 岐阜聖徳学園大学教授 川上 紳一 氏



各務原市には4つのライフデザインセンターがあり、各種生涯学習講座を開催しています。「各務野自然遺産の森」において、毎月開催されている見出しの講座の中から、今回は「川上先生と昆虫観察しよう」を取材しました。

この森には、貴重な植物や鳥、虫、小動物が数多く生息しており、自然環境の保全に努め、自然素材を活用して整備した自然公園として市民の皆さんに親しまれています。

当日は8家族21名の参加でしたが、市の担当者のお話だと47家族138名の応募があったそうで、とても人気の講座であることがわかりました。虫に詳しい母娘がいらっしやっただけで確認したところ、昨年、年間に10回ほどあった昆虫講座に毎回参加されていたそうで、リュックには昆虫のポケット図鑑が入っており、親子で昆虫観察を楽しんでいることがわかりました。

各家族ごとに、飛んでいるトンボやチョウを捕まえたり、葉の裏の倒れている木をひっくり返し何かいないか探したりと、2時間の活動時間はあっという間に過ぎた感じがしました。子どもたちは捕まえた虫たちを、嬉しそうに川上先生に見せに行き、説明を受けていました。

下の保護者の言葉からも分かるように、どの保護者の方も子どもの興味関心を大切にしたいと考え講座に申し込まれており、子どもの思いを尊重されていることが素敵だなと感じました。

参加者の声

- ・下の子が虫が大好きで参加しました。家では半年前ぐらい前からクワガタを飼育しています。姉の方はインドア派なんですけど、自然と親しむよい機会なので連れてきました。
- ・娘が今、虫にハマっていて、普段は家の周りでチョウチョなどを捕まえています。図書館でこの講座の張り紙を見つけて応募しました。昨年はカナヘビを飼っていて、産んだ卵の面倒をみてふ化させるのにも成功しました。
- ・子どもが、虫や爬虫類が好きで、昆虫図鑑などよく見えています。ゲームも好きで普段は家の中で過ごすことが多いので、休みの日はなるべく外に連れ出すようにしています。自分(父)も虫が好きなので、この講座に応募し参加しました。
- ・孫が虫が苦手のようなので、虫好きな子たちと一緒に過ごせば、周りの雰囲気でも虫に触れられるようにならないかと考え、申し込みました。



令和7年度岐阜地区家庭教育学級リーダー研修会 5月14日～16日

ご多用の中、リーダー研修会にご参加いただきありがとうございました。アンケートへの回答についても、ご協力をいただきありがとうございました。

代表実践事例発表を行っていただいた小中学校2校の発表については、回答いただいた全ての方に「満足」「概ね満足」を選択いただきました。それぞれの方が発表から、参考になる情報を得ていただいた結果だと推察いたします。また、後半の交流会についても、95%の方に「満足」「概ね満足」とお答えいただきました。「時間が足りなかった。」とのご意見もあり、積極的な意見交流を行っていただけたことを嬉しく思います。

- ・たくさんの意見が聞けたので良かったです。他の園の行事の発表が1度に聞けたのが良かったです。
- ・他校の方の意見をお聞きすることで、今後どのように計画を進めていったらいいか参考になりました。もともと自分の考えていた案だけでなく、他にも親子で取り組めることができないか、出来る範囲で活動していけたらと思います。
- ・小グループ交流にすることで、聞きたいことがより聞きやすい雰囲気になっていたと思います。給食試食会で参加者が少なく困っていましたが、他の行事と合わせて行っている事例などが聞けて良かったです。

近年、PTA組織や活動の見直しが図られ、家庭教育学級の活動が縮小の方向にあるという声も聞こえてきます。リーダーさんにおかれましては、無理のない形で、園や学校と協力しながら開催していただければと考えます。子どもたちのためにも、保護者が「家庭教育」について学ぶ機会が設けられている状態が継続されるよう、ご協力をお願いいたします。

羽島市立中央中学校 リーダー研修会実践事例発表 5月15日(木) 「親子の会話を増やすきっかけづくり」としての家庭教育学級



家庭教育学級の目標
親子の会話を増やすきっかけづくり

家庭教育学級の年間の予定

<常時活動>

○給食紹介

<行事>

○PTA高校視察

○「話そう！語ろう！我が家の約束」

～メディアについて～

○志授業



奥田校長先生自ら発表していただきました。

試食会等で給食について知っていただく取組みはよくありますが、月に一度画像付きで継続的に紹介される活動は珍しいのではないのでしょうか。給食のことは家庭でも話題にしやすいテーマのため、家族の会話も増えているのではないかと考えます。

コロナ禍以前は、多くの中学校で行われていた高校視察ですが、コロナ禍以降の計画に位置付けられている学校数は少ないです。長期の休みや休日に行われる高校見学会では見ることができない、日常の高等学校の授業の様子、生徒の様子や雰囲気を知ることができ、進路選択時に有益な情報としての子どものに伝えることができますね！

参加者の声

- ・キャリア教育の面など、無理なく学校の教育活動を活かしながら家庭教育学級の活動として位置付けられているところがよかったです。
- ・給食紹介について、子どもとの会話のきっかけとして面白い取組みだなと感じました。メディアコントロールの問題も、家庭教育学級と上手く結びつけていて素晴らしい取組みだと思います。
- ・志授業に関心がわきました。生徒だけでなく保護者も参加されたという事で、親子で同じものを見た上で話をできるというのはとてもいい機会だなと思いました。

笠松町立松枝小学校 リーダー研修会実践事例発表 5月16日(金) ～自分で決めるって楽しい～ 子どもの自ら育つ力をエンパワメント



家庭教育委員会の実践紹介

○子どものチャレンジを見守り、成長に気がつく

お家でクッキング・お弁当の日

我が家の約束

○学校を知り、保護者同士の繋がりをつくる

食育講話・給食試食会

○親子で学ぶ機会をつくる

いのちの授業

学校での取り組み

段ボールプレーパーク



体育館を休み時間に開放してダンボールで自由にあそぶ
「参加する」「参加しない」も「なにをするか」
「だれとするか」も自分で決める

→ 夢中になる。活力がわく。

副題にある「エンパワメント」という言葉は、「(子どもが)自己の能力を最大限に発揮し、自己決定や自己実現を行えるようにすること」を意味します。高島委員長(令和6年度)が、子どもたちは「すごい力をもっています。」と始められた発表。学校と協力しながら、1年間の家庭教育学級の活動を楽しみながら実施されてきたことが伝わってくる明るく前向きなお話が、とても印象的な発表でした。

子どもたちが自由な発想で、自分で決め、自ら進んで取り組む活動を仕組むことで、わが家の約束運動においても、自分で決めた約束をしっかりとやりきろうとする子どもの姿が見られたというお話があり、取組みの成果が表れていることが伝わってきました。

参加者の声

- ・工夫された取組みを、お聞きすることができて、とても良かったです。保護者の方と学校がうまく連携できているので、活動が充実しているのだと感じました。
- ・保護者も一緒に楽しむという視点をもつことは大切だと思います。どうしても、マイナスや心配なことを補おうとすると暗くなりがちです。親の役割で最も大切なことは子どものよさや可能性、視野を広げることだと思います。
- ・子どもが自分で決めて行動するために、学校、保護者が一緒になって取り組んでみえる活動がたくさんあって素敵だと思います。大人も子どももワクワクできるっていいなあと思います。また、いのちの授業はとても参考になりました。

暑くなってきました「食中毒予防」について確認しておきましょう！

食中毒予防の三原則 食中毒菌を「つけない、増やさない、やっつける」

<食中毒を防ぐ6つのポイント箇所>

家庭での食中毒予防は、食品を購入してから、調理して、食べるまでの過程で、どのように、細菌を「つけない」「増やさない」「やっつける」を実践していくかにあります。厚生労働省作成のリーフレットには、「買い物」「家庭での保存」「下準備」「調理」「食事」「残った食品」の6つのポイントにおける具体的な予防方法を、下図のように紹介していますので確認してみましょう！



「家庭でできる食中毒予防の6つのポイント」の二次元コード (厚生労働省)



食中毒を引き起こす主な原因は、「細菌」と「ウイルス」です。細菌もウイルスも目には見えない小さなものです。細菌は温度や湿度などの条件がそろえば食べ物の中で増殖し、(40℃において、約20分で2倍に増殖) その食べ物を食べることにより食中毒を引き起こします。一方、ウイルスは、細菌のように食べ物の中では増殖しませんが、食べ物を通じて体内に入ると、人の腸管内で増殖し、食中毒を引き起こします。また、ウイルスは低温や乾燥した環境中でも長く生存できます。



<子ども用資料> 「正しく知ろう『食』の安全 食中毒を防ぐ」の二次元コード (厚生労働省)

対策1 「加熱」

ほとんどの細菌やウイルスは加熱によって死滅しますので、肉や魚はもちろん、野菜なども加熱して食べれば安全度が上がります。特に肉料理は中心までよく加熱することが大切です。目安として、中心部が1分以上75℃超になるようにしましょう。

対策2 「加熱調理後、直ぐに喫食」 できないときは「5℃以下で冷蔵」または「65℃以上で温蔵」もしくは「冷凍保存」

セレウス菌、ウエルシュ菌、ボツリヌス菌などは、通常の加熱調理をしても、熱に強い芽胞(がほう)を形成する菌であるため、完全に死滅させることができません。そのため、調理後の室温放置は厳禁です。調理後はできるだけ早く食べきってしまいましょう。



1歳未満の乳児にハチミツを食べさせてはいけないのは、ボツリヌス芽胞が混入している可能性(4~6%)があるためです。乳児の腸内で菌が増殖しその毒素で、乳児ボツリヌス症を発症します。ボツリヌス菌の毒は、自然界で最も強い毒力を有すると言われています。